

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアステーションみなと		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別支援計画を軸に、SSTの設計および感覚特性に配慮した支援体制の整備を進めている。 ・子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	日々の活動の中に「参加する」「参加しない」といった選択や、その逆では全体活動の日への促し、おやつや買い物の疑似体験を通して自己決定を促す関わりを日常に取り入れている。	・支援内容の標準化およびマニュアル整備を進め、職員間の共有体制を教科しながら、一貫性のある支援体制の構築を図る。 ・弊社ではケアステーションみなと2を設立し、小学校低学年の内から日々成功体験を積んでいくことにより、ライフステージが上がった時にスムーズに自己決定が出来るよう、ソフト面、ハード面ともに準備し、声掛けを続けていく。
2	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	基幹の相談センターの相談員と出来事を共有し、必要な声掛けを依頼することもある。日常より関わっていただくことによりモニタリングや計画の見直しをスムーズに行うことが出来ている。	引き続き情報共有を心がけ、経過記録を基に随時相談していく。
3	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換・こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	利用児童が受診する際に経過記録を提出し、希望があれば受診に同行し補足している。学校での面談や日常での成功体験を先生とも共有し、声掛けを一貫していくことを重要視している。月間の行事予定は各学校よりFAXでいただいております。急な変更がある場合は都度確認している。	環境が変わった際には、随時連絡調整を心がけ担任の先生や医師とも情報共有をしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の子どもと活動する機会があるか。	地域の他の子どもたちとの交流について、必要性があるのかどうか？	地域の小学校へ通学している児童も多く、機会があれば積極的に参加していきたい。
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	年2回の保護者会を開催しているが、都合がつきにくく全員参加するまで至っていない。	事業所として子ども部会へ参加しており、年に1度講師による研修があるので、まずはそちらへ参加できないか打診をする。
3	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動が居ようや行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	個人情報保護の観点から、リスクを回避するために應矢家には情報を出していない。	マイページを設定出来、限定的でプライバシーを守るようなシステムを導入済。まずはスタッフが使いこなせるよう周知をし、保護者へ提案していく。